

わらべうたの実践 —「わらべうたゆりかごの会」の活動— A review of the practice of the Warabeuta

岩田裕子
(非常勤講師)

キーワード：わらべうた、あそび、子育て、伝統文化、おはなしレストランライブラリー

1. はじめに

島根県立大学松江キャンパスの児童図書専門図書館「おはなしレストランライブラリー」は、絵本が充実し、書架も低く、開放された雰囲気である。多くの面だし絵本棚が用意され、ソファやカーペットの上でゆったりとくつろげる空間にもなっている。親子で絵本に親しむには恵まれた環境である。しかし、小さい子ども、



【写真1】ゆりかごの会の様子

特に、乳幼児にとっては、まずは、心のこもった声かけ、スキンシップなどで、人との関わり、温もり、心地よさを感じることが、育ちの土台作りになる。日本の伝統文化であるわらべうたは、そのための一つの方法として有効である。

「わらべうたゆりかごの会」(以下、「ゆりかご」と記す)は、おはなしレストランライブラリーにおいて、平成28年5月より月に1回のペースでスタートした。【写真1】のように、親子連れの参加者と車座になって、ゆりかごを揺らすように、わらべうたをゆったりとした気分で楽しんでいる。これまでのわらべうたゆりかごの会の実践を振り返り、今後の展望について述べる。

2. わらべうたゆりかごの会の実践について

1) わらべうたの特徴

わらべうたの特徴について、簡単に述べておく。わらべうたは、〈言葉〉と〈メロディー〉と〈動作〉が一体化した遊びである。わらべうたの多くは、生まれた年代も作者も不詳である。定義は諸説あるが、大人が子どもに遊んでや

る〈遊ばせうた〉と、子ども達が自ら積極的に遊ぶ〈遊びうた〉に大きく分けられる。日本の慣習や文化が反映され、地域ごとに特色がある。歌や動作に合わせて拍をとりやすく、そのほとんどが 2 拍子で、子どもの声帯に無理のない、ラドレミソの 5 音階（ペンタトニック）できているものが多い。子ども達の遊びや生活の中で生まれ、歌い伝えられてきたもので、子どもに親しみやすいことから、わらべうたゆりかごの会では、親子でわらべうたを楽しむことにしている。


2) ゆりかごの会のねらい

わらべうたゆりかごの会は、おはなしレストランライブラリーの一般利用者である親子を対象に、毎月第 2 木曜日の 10 時 30 分から 11 時までの 30 分間、おはなしレストランライブラリーの一角に座布団を敷いて、輪になって行っている。


担当は、ゆりかご発足当初は、本学のおはなしレストランスタッフの非常勤講師 2 名（筆者を含む）が主体となり、司書 2 名にサポートに入ってもらう形で行っていたが、平成 30 年 3 月より非常勤講師 1 名（筆者）に司書 2 名のサポートで行っている。

案内は、おはなしレストランライブラリーカレンダーと新聞で行い、加えて、平成 30 年度より、月ごとに【資料 1】のようにチラシを作成してゆりかごの参加者に配布し、おはなしレストランライブラリーのカウンターにも置いている。チラシには、その日に遊んだわらべうたのプログラムと、その中の一つの楽譜を今月のわらべうたとして載せている。ほんの一節ではあるが、楽譜があることで、家庭でも遊びやすくなったようである。

わらべうたの定着を図るため、参加の子どもたちの名前を呼ぶわらべうた「このこどこのこ」、布遊びのわらべうた「にぎりぱっちり」「ちゅちゅこっこ」「だいせんのやまから」「じーじーばー」「たたんでたたんで」、そして会の終わりのわらべうた「さよならあんころもち」は、毎月定番のわらべうたにしている。布遊びの後で、季節を感じられるわらべうたを中心に、鑑賞するわらべうた、




おはなしレストラン わらべうたゆりかごの会
～親子でたのしく遊びましょう～



日時：2018 年 6 月 14 日（木）10:30～11:00
場所：おはなしレストランライブラリー

★あそんだわらべうた★

♫このこどこのこ	♫すずめちゅうちく
♫にぎりぱっちり	♫梅干ゆ食べも
♫ちゅちゅこっこ	♫ふくすげさん
♫だいせんのやまから	♫ーきランラン
♫じーじーばー	♫さよならあんころもち
♫たたんでたたんで	



次回 は 7 月 12 日（木）10：30～11：00 です
お問い合わせ先：島根県立大学松江キャンパス
おはなしレストランライブラリー
☎0852)26-5563

【資料 1】ゆりかごのチラシ

前月のわらべうたの中からの遊び、親子1対1のふれあい遊び、参加者全員がつながる遊びといった流れでプログラムを組んでいる。

わらべうたは、遊ぶためのうたであり、うたと遊びがつながって意味をなしている。今は、口承よりも本から受け取り、伝えるわらべうたが中心になっていて、一つのわらべうたに対して、多様な遊び方が載っているものもある。ゆりかごでは、本来の遊び方を大事にしながらか遊んでいる。だが、わらべうたによっては、子ども達の発達段階に応じて、いくつかの遊びも紹介するようにしている。それは、目の前の参加の子ども達だけでなく、その兄弟姉妹に向けても遊びが広がれば、関わり合いも増え、お互いの遊びの幅がさらに広がると考えるからである。何より、参加親子の負担のないように、また遊び本来の性質がそうであるように、「遊びたい人が遊びたい時に遊べる遊びを」一番に考えて、会も出入り自由とし、一緒に遊んでいる。

3) 実践の記録

平成28年5月12日の第1回目から平成31年2月14日の第32回目までのゆりかごの会について、各回の「月日」「参加人数」「参加した子どもの年齢」「プログラム(わらべうたの題名)」についてまとめた。

2回以上継続して参加した子どもには、アルファベットの後に継続の意味を表す「継」と参加の「回数」を記した。

第1回目に○印を付けたわらべうたは、毎回行っているため、第2回目以降は記述を省略した。

【第1回目】平成28年5月12日(木) 子ども6名保護者6名大人2名
K(2歳9カ月)、R(4カ月)、K(不明)、M(1歳3カ月)、I(4カ月)、M(2カ月)

プログラム: ○このここのこ、○にぎりぱっちり、○ちゅちゅこっこ、○だいせんのやまから、○じーじーばー、○たたんでたたんで、こりやどこのじぞうさん、おふねがぎつちらこ、せんぞうやまんぞう、○さよならあんころもち

【第2回目】平成28年6月9日(木) 子ども10名保護者8名
M継②(3カ月)、H(2歳10カ月)、M(2歳)、R(1歳3カ月)、R(3歳)、A(10カ月)、M(1歳3カ月)、J(4歳)、R(4歳)、R(4歳)

プログラム: えんどうまめそらまめ、ちっちゃいまめころころ、ふくすけさん、ほたるこい

【第3回目】平成28年7月14日(木) 子ども5名保護者5名
M(1歳8カ月)、T(1歳6カ月)、S(7カ月)、Y(5カ月)、K(8カ月)
プログラム: いちりにり、きゅうりを一本、かんこかんこ、ぽつつんぽつつん、

なみなみわんわちゃくり、たなばたたなばたさん

【第4回目】平成28年9月8日（木） 子ども5名保護者5名大人4名
M継③（6カ月）、A（1歳1カ月）、R（4歳）、I継②（8カ月）、Y（3歳）
プログラム：キッコンマッコン、おつきさまえらいの、ひとやまこえて

【第5回目】平成28年10月13日（木） 子ども5名保護者4名
J継②（5歳）、R継②（4歳）、R継②（5歳）、Y継②（3歳）、Y（2歳）
プログラム：キッコンマッコン、もみすりおかた、どんぐりころちゃん、おつきさまえらいの

【第6回目】平成28年11月10日（木） 子ども4名保護者4名
Y継③（3歳）、Y継②（2歳）、M継②（1歳9カ月）、R継②（1歳8カ月）
プログラム：どんぐりころちゃん、ここはてつくび、山のしばぐり

【第7回目】平成28年12月8日（木） 子ども6名保護者4名
O（1歳4カ月）、H継②（3歳4カ月）、W（4カ月）、M（2歳4カ月）、Y（4歳1カ月）、R継③（1歳9カ月）

プログラム：ここはてつくび、どんぶかっか、たこたこあがれ

【第8回目】平成29年1月12日（木） 子ども6名保護者4名
M継③（1歳11カ月）、K（2歳2カ月）、H（7カ月）、S（4カ月）、T（3歳4カ月）、Y（8カ月）

プログラム：どんぶかっか、にわとりいちわが、たこたこあがれ

【第9回目】平成29年2月9日（木） 子ども3名保護者2名大人2名
S継②（5カ月）、M（3歳10カ月）、T（1歳10カ月）

プログラム：ととけっこう、にわとりいちわが、豆がいつこはねた、まめじゃこきじゃこ、雨コンコン雪コンコン

【第10回目】平成29年3月9日（木） 子ども5名保護者5名
S継③（6カ月）、H（1歳7カ月）、M（9カ月）、A（9カ月）、T（11カ月）
プログラム：おひなさまよ、づくぼんじょ、まめじゃこきじゃこ、うぐいすのたにわたり、おやゆびねむれ

【第11回目】平成29年4月13日（木） 子ども4名保護者3名
H（3カ月）、M（2歳5カ月）、W（1歳7カ月）、O（2カ月）

プログラム：づくぼんじょ、（詩）はなののののはな、うぐいすのたにわたり、たんぽぽ

【第12回目】平成29年5月11日（木） 子ども2名保護者2名
R（7カ月）、H（11カ月）

プログラム：たんぽぽ、たけのこめだした、ひとりできびし

【第13回目】平成29年6月8日（木） 子ども8名保護者8名学生1名
M（2歳）、R（3カ月）、M継④（2歳5カ月）、A（2歳9カ月）、H継②（1歳）、

0 (2歳)、H (2歳6カ月)、W 継② (10カ月)

プログラム：えんどうまめそらまめ、ふくすけさん、まいまい、かえるがなくから

【第14回目】平成29年7月13日(木) 子ども6名保護者6名、学生2名
K (5カ月)、S (5カ月)、H 継③ (1歳1カ月)、M 継⑤ (2歳6カ月)、R 継② (9カ月)、M 継② (1歳1カ月)、

プログラム：えんどうまめそらまめ、じょうりこじょうりこ、うめぼしゆたべても、たなばたたなばたさん

【第15回目】平成29年8月10日(木) 子ども9名保護者7名
R 継③ (10カ月)、K 継② (2歳9カ月)、K 継② (6カ月)、H (3歳8カ月)、H (1歳6カ月)、K (4カ月)、H (1歳5カ月)、M (4歳5カ月)、K (3歳3カ月)

プログラム：うめぼしゆたべても、ちょんちょや、こりやどこのじぞうさん、おおなみなみ、なみなみわんわちやくり

【第16回目】平成29年9月14日(木) 子ども6名保護者5名
S (1歳6カ月)、K (4カ月)、K 継③ (7カ月)、S (8カ月)、I (1歳8カ月)、K (3歳) 中学生2名(職場体験)

プログラム：、ちょんちょや、じゅうごやんおつきさん、おつきさまえらいの、キッコンマッコン

【第17回目】平成29年10月12日(木) 子ども6名保護者6名
M 継③ (1歳4カ月)、K 継④ (8カ月)、M 継② (3歳2カ月)、F (11カ月)、M (11カ月)、S (2歳)

プログラム：どんぐりころちゃん、おつきさまえらいの、じゅうごやんおつきさん、いもほり

【第18回目】平成29年11月9日(木) 子ども6名保護者5名
S 継② (10カ月)、K 継② (3歳1カ月)、K 継② (6カ月)、M 継④ (1歳5カ月)、M 継⑥ (2歳10カ月)、S (1歳11カ月)

プログラム：どんぐりころちゃん、うまはとしとし、山のしばぐり

【第19回目】平成29年12月14日(木) 子ども4名保護者4名
M 継⑦ (2歳11カ月)、A (5カ月)、S (1歳1カ月)、M 継⑤ (1歳6カ月)

プログラム：うまはとしとし、さるのこしかけ、ゆうりのき

【第20回目】平成30年1月11日(木) 子ども2名保護者2名
S 継② (2歳1カ月)、M 継⑧ (3歳)

プログラム：さるのこしかけ、もちっこやいて、ゆうりのき

【第21回目】平成30年2月8日(木) 子ども2名保護者2名大人2名
A 継② (7カ月)、S (5カ月)

プログラム：こどもかぜのこ、だいこんつけ、豆がいっことはねた

【第22回目】平成30年3月8日（木） 子ども7名保護者7名
S継③（2歳3カ月）、M継⑥（1歳8カ月）、H（4カ月）、Y（3歳11カ月）、R
（10カ月）、A継③（8カ月）、S継②（6カ月）

プログラム：つくぼんじょ、だいこんつけ、わたしよわたしよ、豆がいつこは
ねた

【第23回目】平成30年5月10日（木） 子ども7名保護者7名学生2名
N（1歳11カ月）、M（9カ月）、K継③（1歳）、Y（1歳9カ月）、R（1歳8カ
月）、N（1歳9カ月）、A（10カ月）

プログラム：でこちゃん、すずめちゅうちく、たんぽぽ、こいのたきのぼり

【第24回目】平成30年6月14日（木） 子ども3名保護者3名

N継②（1歳10カ月）、Y（1歳1カ月）、K（2カ月）

プログラム：すずめちゅうちく、うめぼしゆたべても、ふくすけさん、ーりき
ランラン

【第25回目】平成30年7月12日（木） 子ども4名保護者4名

A（5カ月）、R継②（1歳10カ月）、A継②（1歳）、Y継②（1歳11カ月）

プログラム：テンテコテン、ふくすけさん、いもむしごろごろ、こまんか

【第26回目】平成30年8月9日（木） 子ども16名保護者3名大人10名
Y（4歳）、A継③（1歳1カ月）、O（2歳）、小学生13名（放課後等デイサービ
ス利用の）

プログラム：ゆうなのきのしたで、こまんか、こりゃどこのじぞうさん、ひら
いたひらいた

【第27回目】平成30年9月13日（木） 子ども6名保護者6名

M（6カ月）、S継④（2歳8カ月）、T（5カ月）、N（11カ月）、N（1歳11カ
月）、A継④（1歳2カ月）

プログラム：チンチロリン、こりゃどこのじぞうさん、おやゆびねむれ、じゅ
うごやんおつきさん

【第28回目】平成30年10月11日（木） 子ども6名保護者5名

T（1歳2カ月）、T（2歳11カ月）、A継⑤（1歳3カ月）、M継②（7カ月）、A
（2歳10カ月）、R（2カ月）

プログラム：こおろぎコロコロ、おやゆびねむれ、どんぐりころちゃん、イッ
プデップ、いもほり

【第29回目】平成30年11月8日（木） 子ども8名保護者7名

A継⑥（1歳4カ月）、A継②（2歳11カ月）、R継②（3カ月）、H（1歳6カ
月）、A（1歳1カ月）、K（1歳7カ月）、T継②（7カ月）、A継②（9カ月）

プログラム：どんぐりころちゃん、ころろん、ねずみねずみ、ごいごいごいよ、
山のしばぐり

【第30回目】平成30年12月13日（木） 子ども7名保護者7名
H継②（1歳7カ月）、K（2歳8カ月）、K（6カ月）、M（2カ月）、A継⑦（1歳5カ月）、A（10カ月）、O継②（2歳4カ月）

プログラム：雨コンコン雪コンコン、ねずみねずみ、なんのそえそえ、どんぶがかっか、ゆうりのき

【第31回目】平成31年1月10日（木） 子ども9名保護者8名
A継③（3歳1カ月）、R継③（5カ月）、M継②（3カ月）、H（11カ月）、K継②（1歳9カ月）、H継②（1歳8カ月）、K継②（7カ月）、A継⑧（1歳6カ月）、O継③（2歳5カ月）

プログラム：正月じいさん、もちっこやいて、どんぶがかっか、ゆうりのき、どんどんばし

【第32回目】平成31年2月14日（木） 子ども2名保護者2名
S（2歳）、A継⑨（1歳7カ月）
プログラム：かた雪わたり、もちっこやいて、いちりにり、どんどんばし、豆がいっこはねた

3. 実践から

わらべうたゆりかごの会における一番の変化は、継続して参加する親子が増えたことである。初めて参加の第1回目M（1歳3カ月）の母「こんな手軽な物（布）で子どもは楽しめるんですね。」、第18回目S（1歳11カ月）の父「この子が喜ぶからまた来ます。」、第8回目S（4カ月）の母「にわとりいちわが（紙風船つき）、S、大笑いしていましたね。私もはりきってしまいました。」と、親達は我が子の姿に驚かされる。そして、参加の回を重ねるごとに、子ども達は、「見て楽しむ」から「しぐさやうたを真似て楽しむ」へ、親達は「動きを真似る」から「うたを口ずさみながら、子どもに合わせて動く」へと、受け身から能動的に遊ぶようになってきた。

このことは、特に毎回の定番のわらべうたの時に顕著である。筆者の記録を引用すると、第15回目の記録一（K継②（6カ月）は、「このここのこ」で名前を歌いかけると、先月よりも表情豊かに声を返してくれた。）、第14回目の記録一（R継②（9カ月）は、普段は、母から離れないそう。居心地がよくなってきたか、「だいせんのやまから」では、安心したように、ハイハイをしてやってきて、円の真ん中で、みんなが凧に見立てた布を振り回して飛ばすのを、体を揺らしながら見ていた。）、第32回目の記録一（A継⑨（1歳7カ月）は、初めて聞いた「かた雪わたり」の時は、聞いている時も遊ぶ時も最初は表情が強張り、定番のわらべうたの時は、途端に笑顔になり、次の遊びを先取りして布を振り、遊んでいた。少し口ずさめるようになってきた。）とある。

参加者の中には、第 30 回目 H 継②（1 歳 7 カ月）の母「お風呂で「じーじーばー」をして遊んでいます。」、第 24 回目 N 継②（1 歳 10 カ月）の母「N が、ここで遊んだわらべうたを一つ一つお父さんに教えてあげているんですよ。「こいのたきのぼり」が大好きです。」など、ゆりかごで取り上げたわらべうたを家庭に持ち帰って楽しんでいる人も少なからずいた。身近な人と繰り返し繰り返し遊ぶことで、安心感が生まれ、ゆりかごで生き生きと遊べるようになったようである。

また、参加した親（祖父母も含む）の気持ちにも変化が見られた。第 26 回目 Y（4 歳）の祖母「聞いていると、懐かしい気持ちに涙が出そうになった。」、第 30 回目 H 継②（1 歳 7 カ月）の母「ゆりかごに来ると、育児の悩みを忘れます。」、第 24 回目 K（2 カ月）の母「K はまだ首が座らないので、出かけられるところも限られていて。ここなら大丈夫かなと思って。来てよかったです。」と、わらべうたが親の癒しにもなっているようである。

親子間だけでなく、横のつながりもできてきた。第 29 回目の記録―（この頃、子ども同士のやりとりが見られるようになってきた。「山のしばぐり」で、鍋に見立てた大きな布にお手玉（栗）を入れて、歌いながら布を振り、茹でて食べる。A（1 歳 1 カ月）が K（1 歳 7 カ月）に茹でられたお手玉を何個も渡し続けて、K ももらったお手玉を落とさないようにしっかり握っていたのがかわいかった。）。A も K もその日、初めて知り合ったのだが、わらべうたで遊ぶとすぐにつながることができた。そして、A と K の親同士もそのことがきっかけで、ゆりかごの後、お互いの子育ての話を交わしていた。

わらべうたは子どもの中に本来的に備わっているものではないかと感じさせる場面に出くわすこともあった。例えば、第 28 回目「おやゆびねむれ」では、筆者が歌い始めると、それまで母の膝に座っていた A 継⑤（1 歳 3 カ月）は、急に母に向き直って、母の膝に顔をうずめて寝始めたのである。あくびまでしていたのにはさらに驚いた。第 26 回目にも印象的な出来事があった。その日は、小学生の参加人数の多さに圧倒されて、ゆりかごの輪に入らず、離れたところからゆりかごを見て楽しんでいた子ども達もいたのだが、筆者が、抱っこした人形をトントンとさすりながら「ゆうなのきのしたで」を歌い、みんなで体を揺らしていると、それまで賑やかだったおはなしレストランライブラリーが心地よい静けさに包まれた。歌い終わる頃に、一人の小学生の男の子がごろんと横になり、歌い終わると、筆者が抱っこしている人形に手を出してきて、そっと抱きかかえて寝かしつけてくれた。子どもの中にわらべうたがある、わらべうたの中に子どもがある。わらべうたのよさを子ども達の中に見た瞬間だった。

4. おわりに

わらべうたは、元々口から口へと伝えられてきたものである。だが、現代の親世代も遊びが多様化してきて、わらべうたで遊んだ経験が少ないのが実情である。ところが、ゆりかごに参加した親達に子どもの頃の遊びについて尋ねると、誰かと一緒に遊んだ遊びを挙げる人が少なくない。それだけ人と関わって遊んだ遊びは、心の奥深くに残り、人の育ちを支えていることが感じられる。

ゆりかごに参加した親子は、わが子と覚えたわらべうたで遊ぶのが楽しいだけでなく、わらべうたの中に、子どもの成長を見る喜びをも実感している。どんなに小さな子どもでも、わらべうたに耳をすませ、歌いかけると心と体で応えてくれる。この約3年間、ゆりかごを通して、何組もの親子と一緒にわらべうたを楽しんできて、子どもが人と関わりながら、温もりの中でつながる体験を重ねながら成長していく、子育ての土台作りを見させてもらった。

わらべうたは、前述したように地域ごとの特色もある。参加する子ども達が低年齢ということもあり、遊びが限定されるところはあるが、ふるさとに伝わる魅力あるわらべうたもゆりかごのプログラムに積極的に取り入れていきたい。

今後は、ゆりかごに参加の親子を対象に、ゆりかごに参加する前と参加を積み重ねるようになってからの生活の変化や子どもの様子や発達、親子間の様子などを調査し、わらべうたが与える影響を丹念に追っていきたい。

わらべうたゆりかごの会に継続して参加してくれる親子は、その多くが引越したり保育園・幼稚園入園を機に巣立っていく。親の中には、「子どもの幼稚園にもわらべうたをしに来てください。」と言う人もいる。そんな時、筆者は必ずこう返している。「今度は、お父さんお母さん達が、知っているわらべうたでたくさん遊んであげてください。」と。それこそが親子の絆を深め、わらべうたを後世に伝えていく尊い営みであると信じるからである。

【参考文献】

『日本わらべ歌全集 20 下 島根のわらべ歌』(酒井董美・尾原昭夫著、1984、柳原書店)

『新訂わらべうたであそぼう 乳児のあそび・うた・ごろあわせ』(コダーイ芸術教育研究所、1985、明治図書)

『幼稚園・保育園のわらべうた・あそび 春・夏』『 同 秋・冬』(畑玲子・知念直美・大倉美代子著、1994、明治図書)

『にほんのわらべうた④楽譜と CD』(近藤信子、2001、福音館書店)

『わらべうた実践集—うめぼしすっぱいな—』(たかぎとしこ編著、2003、高城敏子)

『日本こどものあそび大図鑑』（笹間良彦著画、2005、遊子館）

『わらべうた わたしたちの音楽—保育園・幼稚園の実践—』（コダーイ芸術教育研究所著、2008、明治図書）

『うたおうあそぼうわらべうた—乳児・幼児・学童との関わり方』（木村はるみ・蔵田友子、2009、雲母書房）

『日本のわらべうた 歳事・季節歌編』『 同 戸外遊戯歌編』『 同 室内遊戯歌編』（尾原昭夫編著、2009、文元社）

『わらべうたですくすく子育て みんないっしょにうたってあそぼう「うめぼしすっぱいな」』（たかぎとしこ著、2012、明治図書）

『わらべうたでいきいき保育 一年中うたって遊ぼう「いろはにこんぺいとう」』（たかぎとしこ著、2012、明治図書）